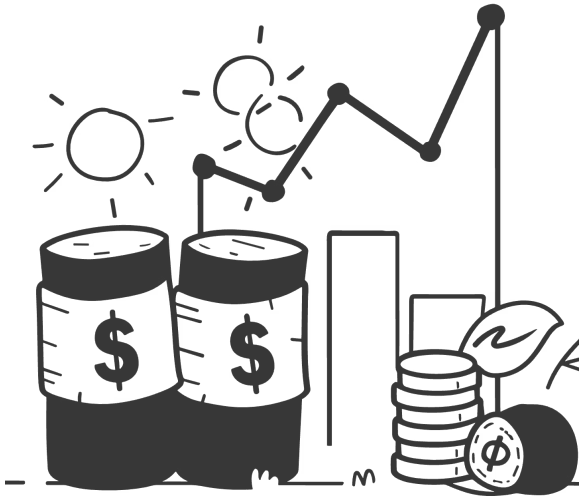


米国防衛関連株の包括的分析

地政学的変化の中での投資機会を探る専門的分析レポート。現在の世界情勢を踏まえた米国防衛セクターの詳細な調査と将来性を解説します。

世界および米国の防衛支出動向



2.7兆ドル

世界の軍事支出

2024年に過去最高を記録し、10年連続の増加傾向にあります。前年比では9.4%という急成長を示しており、世界的な安全保障環境の変化を反映しています。

997億ドル

米国の国防予算

世界の総軍事支出の36.7%を占め、米国は依然として最大の軍事費支出国です。この巨額の予算は、革新的な防衛技術開発や軍事力の近代化に充てられています。

3.58%

市場成長率

米国の防衛市場は2024年から2029年にかけて年平均3.58%の成長が予測されています。地政学的緊張の高まりと技術革新の加速により、持続的な成長が期待されています。

これらの数字は、世界各国が安全保障環境の変化に対応するため、防衛力強化に注力していることを示しています。特に米国は、次世代技術の開発と既存システムの近代化に重点を置いた投資を継続しています。

主要な防衛請負業者



ロッキード・マーティン

F-35ライトニングII、F-22ラプター、C-130ハーキュリーズなどの象徴的な戦闘機や輸送機、ミサイルシステムで知られる世界最大の防衛請負業者です。長期的な政府契約と革新的な航空宇宙技術により、安定した収益基盤を確立しています。



RTXコーポレーション

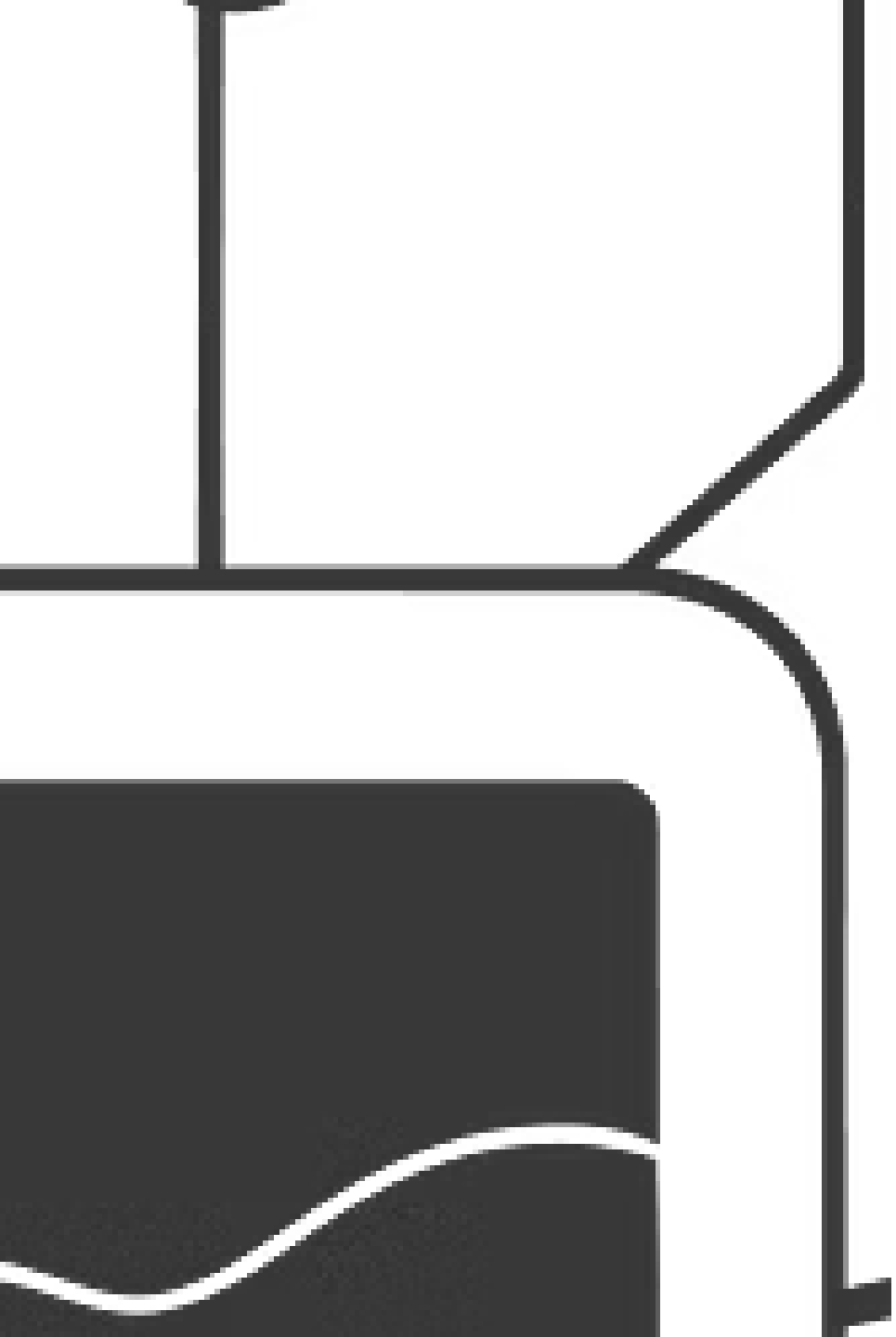
パトリオット、トマホーク、AIM-9Xなどのミサイルの世界トップクラスの生産者です。防衛技術だけでなく、航空機エンジン、サイバーセキュリティにも強みを持ち、多角的な事業ポートフォリオを構築しています。



ノースロップ・グラマン

B-2爆撃機やF-14戦闘機、無人機、電子戦技術に定評があります。特にB-21レイダー・ステルス爆撃機プログラムの主要プレーヤーとして、次世代戦略兵器システムの開発を主導しています。

これらの主要防衛請負業者は、米国および同盟国の軍事力の中核を担っており、長期的な政府契約に基づく安定した収益構造が特徴です。また、民間航空や宇宙探査などの分野にも事業を展開し、リスク分散を図っています。



特化型防衛技術企業

01

GEエアロスペース

商用および軍用航空機向けのジェットエンジンとターボプロップエンジンを提供しています。軍用航空機エンジン市場で約30%のシェアを占め、次世代エンジン技術の開発に積極的に投資しています。

02

アクソン・エンタープライズ

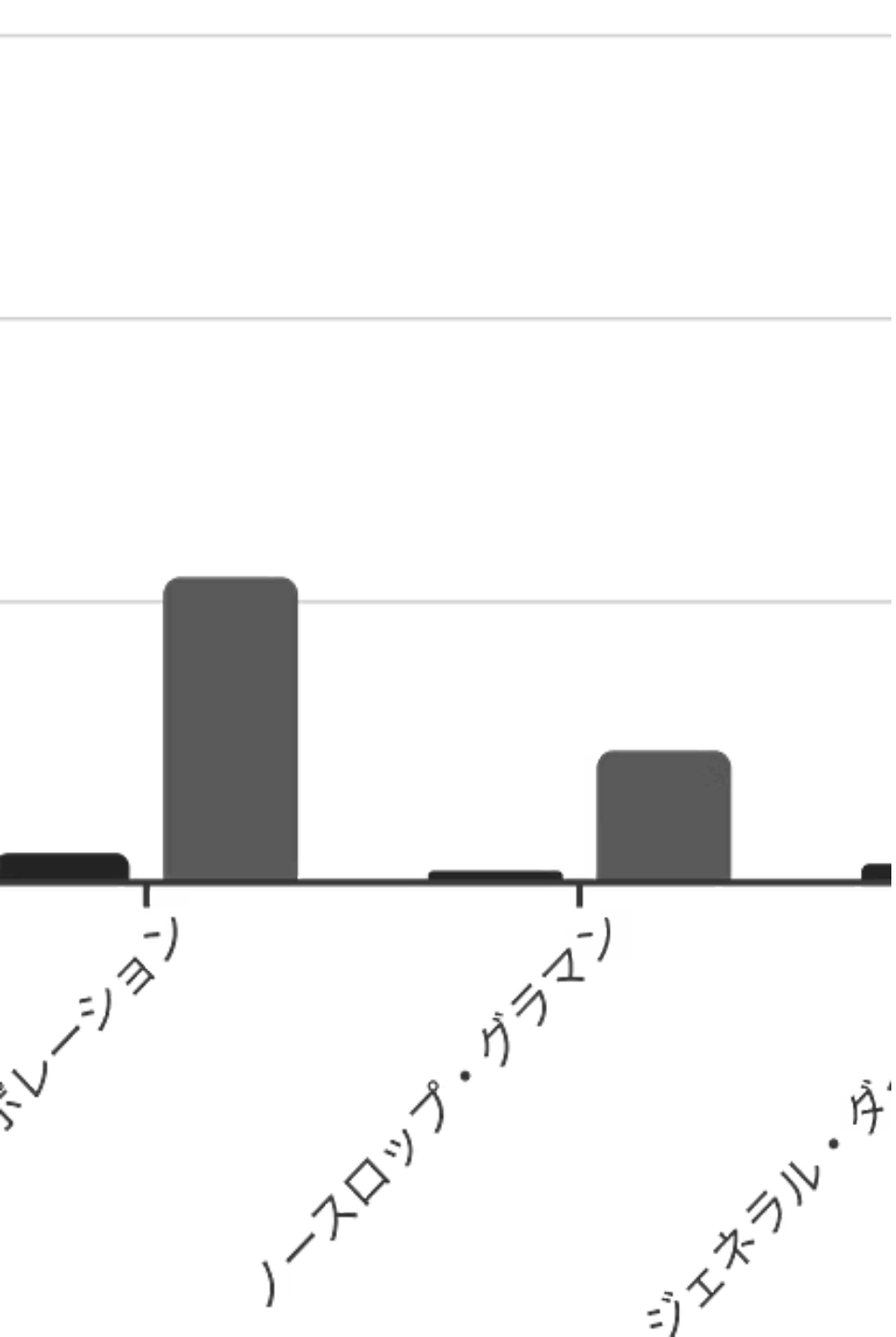
法執行機関向けのテーザー銃やボディカメラで知られ、近年は対ドローン技術や防衛分野にも事業を拡大しています。サブスクリプションベースのSaaSモデルを導入し、継続的な収益を生み出す安定したビジネスモデルを構築しています。

03

ロケット・ラボUSA

小型衛星打ち上げと宇宙システムの世界的リーダーです。米国宇宙軍の国家安全保障宇宙打ち上げプログラムに参加し、防衛および情報収集衛星の打ち上げ能力を提供しています。再利用可能なロケット技術の開発も進行中です。

これらの特化型企業は、大手防衛請負業者と比較して規模は小さいものの、特定の技術分野での専門性と革新性により、高い成長ポテンシャルを持っています。また、民間市場と防衛市場の両方にサービスを提供することで、リスク分散も図っています。



主要企業の財務実績

グラフは主要防衛企業の2025年第1四半期の財務ハイライトを示しており、総収益と受注残高（単位：億ドル）の両面から各社の業績を比較しています。特にロッキード・マーティンとRTXコーポレーションは、受注残高が総収益を大きく上回っており、将来の安定した収益成長が期待できます。

収益の安定性

防衛企業は長期的な政府契約に基づいて事業を展開しているため、一般的な景気循環の影響を受けにくく、収益の安定性が高いという特徴があります。特に国防予算が増加傾向にある現在の環境では、さらなる成長が期待できます。

受注残高の重要性

防衛産業では受注残高が将来の収益を予測する上で重要な指標となります。グラフに示されているように、主要企業は数年分の仕事を確保しており、この安定した受注残高が株価の下支えとなっています。

利益率の傾向

特殊な技術や知的財産を持つ防衛企業は、一般的に高い利益率を維持しています。特に研究開発投資から生まれた独自技術を持つ企業は、競争上の優位性により、優れた収益性を実現しています。

新興技術とイノベーションの推進要因



人工知能と自律システム

米国国防総省は2023年から2025年にかけて、有人・無人連携技術の研究開発プロジェクト50件に約20億ドルを投資しています。AIを搭載したドローンやロボットプラットフォームが監視、目標捕捉、精密攻撃において不可欠な要素となっています。

サイバーセキュリティ・ソリューション

米国国防総省の2025会計年度予算には、サイバー空間活動に140億ドルが計上されています。ブロックチェーン、量子暗号、AI駆動型脅威検出といった最先端技術が軍事データとインフラを保護するために統合されています。

極超音速兵器と宇宙システム

宇宙経済は2035年までに推定1兆8,000億ドルに達すると予測されています。米国宇宙軍の2026会計年度RDT&E予算案は290億ドルで、2025会計年度の185億ドルから大幅に増加しています。

これらの新興技術分野は、米国の防衛戦略において中核的な位置を占めるようになっており、防衛関連企業にとって重要な成長機会を提供しています。特に民間技術を軍事応用に転用する能力を持つ企業や、基礎研究から実用化までの一貫した開発能力を持つ企業が、この分野で優位性を発揮しています。

投資手段：防衛関連ETF

iシェアーズ米国航空宇宙・防衛ETF (ITA)

- 総資産：78億3,000万ドル
- 上位10銘柄が総資産の74.87%を占める
- 主要構成銘柄：GEエアロスペース(20.04%)、RTXコーポレーション(15.24%)、ボーイング(9.30%)
- パフォーマンス：1年間で+31.29%、5年間で+17.69%

大手防衛企業への集中投資を通じて、業界リーダーの成長から利益を得たい投資家に適しています。安定した配当と長期的な資本成長の可能性を提供します。

SPDR S&P航空宇宙・防衛ETF (XAR)

- 総資産：32億7,000万ドル
- 上位10銘柄が総資産の45.30%を占める
- 均等加重ポートフォリオで特定企業への集中リスクが低減
- 中堅企業にも分散投資したい投資家に有利

より広範な業界エクスポージャーを求める投資家に適しています。均等加重アプローチにより、新興の防衛技術企業からの成長機会も捉えることができます。

これらのETFは、個別銘柄選択のリスクを軽減しながら、防衛セクター全体への効率的な投資を可能にします。地政学的緊張の高まりや国防予算の増加が予測される現在の環境下では、防衛関連ETFはポートフォリオの分散化と潜在的な成長機会の両方を提供する投資手段として注目されています。

投資家は自身のリスク許容度と投資目標に応じて、集中型のITAと分散型のXARを選択することができます。また、両方を組み合わせることで、大手企業の安定性と中小企業の成長ポテンシャルの両方を活用することも可能です。

ESG考慮事項と今後の展望

ESGジレンマ

防衛産業は伝統的にESGポートフォリオから除外されてきましたが、地政学的不安定性の高まりにより、国家安全保障が社会福祉の基盤であるという認識が広がっています。多くの機関投資家は、防衛セクターに対するESG評価の見直しを進めています。

ESGリスク

人権への影響、政治的不安定性、環境への影響、サプライチェーンの透明性の欠如など、防衛産業への投資には重大なESGリスクが伴います。投資家はこれらのリスクを慎重に評価し、企業のガバナンス体制や倫理的取り組みを精査する必要があります。

将来の展望

米国防衛関連株への投資は、世界の安全保障環境が変化し続ける中で持続的な成長の可能性を秘めていますが、技術革新の方向性、企業の財務健全性、倫理的考慮事項の理解が不可欠です。特に、デュアルユース技術（民生・軍事両用技術）を開発する企業は、長期的な成長ポテンシャルが高いと考えられます。

責任ある投資機会

企業とのエンゲージメント、人権保護条項の組み込み、デュアルユース技術への焦点、セクター固有のESG評価の開発などを通じて、より責任ある投資アプローチが可能になります。特に透明性の高いガバナンス体制を持つ企業への選択的投資が重要です。

防衛セクターへの投資は、純粋な財務的観点だけでなく、倫理的・社会的側面も考慮した総合的なアプローチが求められます。責任ある投資家は、国家安全保障への貢献と持続可能な事業実践のバランスを取る企業を支援することで、社会的価値と経済的リターンの両立を目指すことができます。